

2025 年度 北海道雪氷賞

「北の風花賞」

富田 真未 氏（北海道開発技術センター）

論文名： 「冬道での転倒者を対象としたアンケート調査 -2024 年度冬期調査報告-」

選考理由： 過去 3 冬季シーズンにわたり、冬道転倒者を対象とした独自の Web アンケート調査を継続的に行ってきた著者は、消防局による救急搬送データの解析だけではわからなかった貴重な知見を整理し、転倒しやすい行動パターンとその路面状況についてわかりやすく報告しています。転倒事故については、救急搬送として顕在化しない事例も集められているだけでなく、事故防止につながる有効な対策が示唆されています。冬道転倒防止活動に大きく貢献する内容であり、今後のさらなる研究の進展が期待できることから、「北の風花賞」受賞論文として選考されました。

「北の蛍雪賞」

石井 吉之 氏（NPO 法人雪氷ネットワーク）

受賞名： 雪氷水文学に関する研究と発展ならびに学会活動への貢献

選考理由： 石井吉之氏は、北海道大学低温科学研究所在職時には雪氷水文学の分野でご活躍され、北海道母子里の大学演習林をフィールドに長年研究活動を地道に続けてこられました。特に、融雪期における積雪層内の融雪水や、化学成分の挙動、河川へのこれらの流出過程に関する研究に従事され、多くの成果を挙げられました。また、近年、雪氷災害への懸念が高まっている Rain-On-Snow 現象時の雪氷水文的研究にも早くから取り組まれてきたことは、特筆すべき点です。日本雪氷学会においては、雪氷化学分科会の会長を 2003 年度～2006 年度に務められ、雪氷化学分野のその後の発展に多大な寄与がありました。北海道支部においては、1998 年度より幹事、幹事長を歴任し、2014 年度～2016 年度まで副支部長、2019 年度～2020 年度まで支部長を務められ、支部の発展に重要な役割を果たされました。このように、長きにわたり北海道における雪氷学の発展に尽くし、日本雪氷学会ならびに北海道支部の運営・活動に対する石井氏の貢献は大きいと言えます。

以上の功績を称え、石井氏に「北の蛍雪賞」を贈呈いたします。

「北の蛍雪賞」

松澤 勝 氏（国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所）

受賞名： 吹雪時の視程障害に関する研究と発展ならびに学会活動への貢献

選考理由： 松澤勝氏は、寒地土木研究所において長年、吹雪時における視程障害に関する研究等に取り組まれてきました。全国的にもよく知られている「吹雪の視界情報」のウェブサイトを立ち上げ、SNS による「吹雪の視界情報」の配信を行うなど、北海道の吹雪による視程障害の啓発活動に貢献されました。また、雪氷学会においては 30 年以上にわたり本学会の全国大会や北海道支部研究発表会で発表を重ねて後進の指導にも尽力され、2012 年度～2017 年度まで吹雪分科会長、2021 年度から 2024 年度まで北海道支部長を務められ、日本雪氷学会の発展に重要な役割を果たされました。特に、支部長在任中の 2022 年度に札幌にて開催された雪氷研究大会（2022・札幌）では実行委員会の幹事長を務め、コロナ禍の終盤において現地開催を推進し、大会の成功を収めました。さらに、国際貢献として 2009 年から 2018 年まで米国 TRB（Transportation Research Board）の冬期サービス委員会委員、2009 年から 2023 年には世界道路協会（PIARC）の冬期サービス委員会の技術委員としてご活躍されました。以上のように、松澤氏の吹雪災害軽減に関する研究ならびに雪氷学会支部運営に果たした功績は顕著と言えます。

以上の功績を称え、松澤氏に「北の蛍雪賞」を贈呈いたします。